



岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方におのみお送りしています

第 31 号(2011 年 7 月 27 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

夏本番を迎えました。法学部だより第 31 号をお届けします。

月 2 回程度発行している「法学部だより」ですが、8 月は夏休みとさせていただきます。みなさん、楽しい夏をお過ごしください。

目次

- 半田山つれづれ ～法学部長の独り言～ (第 7 回)
- ボランティア体験記 (東日本大震災被災地域にて)
- 法学部からのお知らせ
- 最近の話題

-
- 半田山つれづれ ～法学部長の独り言～ (第 7 回)
-

高校訪問

学部長に就任した 4 年前から、思い立って、副学部長の河原先生と高校訪問をしています。法学部には県の内外的様々な高校から毎年高校生が入学してきます。しかし、私自身、この中四国地域出身の人間でないこともあって、法学部の学生が実際にどんな高校で学んできたのかを実感として知りたいという思いをずっと持っていました。そこで、法学部の宣伝と高校の先生方の岡山大学法学部の印象を知るためということで、高校訪問を始めた次第です。

1 年目は、岡山および倉敷を中心とした県南部の公立高校を訪ね、2 年目は、津山高校、新見高校などの県北の高校を訪問しました。また、去年は、最近入学者が増加している兵庫県西部地域の姫路、加古川などの公立高校に出かけました。そして、4 年目の今年、5 月 23 日に、瀬戸大橋を渡り、高松、丸亀、観音寺の公立高校 5 校を訪問しました。

それぞれの高校を訪ねて感じたことは、やはり高校ごとに独自のカラーがあり、先生方もそれを誇りとし、大切にされているということでした。また、兵庫県西部、香川県西部地区が想像していた以上に岡山に近いことが分かりました。高校生にとって「法学部」がイメージしにくいこと、法学部出身の高校教員が少ないために、先生自身も「法学部で何を学ぶか」について十分な知識を持っていないことが分かったのも、この高校訪問の一つの成果でした。こうした成果を今後の法学部の広報活動にも生かしていきたいと考えています。

春の中間試験などでご多忙な中にもかかわらず早く私どもの勝手な訪問に対応していただいた各高校の関係者の皆様にたいして、この場を借りて、心からお礼申し上げます。

法学部長 佐野 寛

-
- ボランティア体験記 (東日本大震災被災地域にて)
-

私は、6 月中旬に法学部の友人 2 人と岩手県大槌(おおつち)町へ災害ボランティアに行きました。大槌町は沿岸部にあり、震災後の津波によって特に大きな被害を受けた場所の 1 つです。

ボランティア前日の夜に東京を出発し、バスで岩手県に入りました。大槌町の市街地に入った途端、窓の外に見える風景が一変したことに言葉を失いました。全壊・半壊した家屋と瓦礫の山、ひっくり返ったままの車や船、建物の基礎部分のみが残された住宅地、木の枝の信じられないほど高い場所に引っ掛かったままになっている毛布やぬいぐるみ…。戦争を経験したことのない私が言うのはおかしいのですが、戦場の跡という表現があてはまるような光景で、ここは本当に日本なのだろうかと思いたくなりました。津波による被害の大きさは、実際に自分の目で見ると、メディアを通して見たものと比べ物にならないくらい衝撃的でした。

ボランティアの内容は、大槌川という川の河川敷に菜の花を植えてきれいにしよう、という「菜の花プロジェクト」のお手伝いでした。このプロジェクトは、ある住民の方がたった 1 人で河原のゴミ拾いから始めたものだ

そうで、今では賛同者が増えて全国からのボランティアも加わり、大きな取り組みになっています。私たちは、河川敷の瓦礫やゴミを撤去して肥料を撒くという、菜の花を植える前段階の作業を2日間行いました。

作業をしたのは海岸から3km程離れた場所でしたが、河川敷は津波によって流れ着いたヘドロが蓄積していて、スコップで掘ると、魚の死骸や海藻、中身が入ったままのお菓子の袋やゲームカセット、家の柱の一部だと思われる大きな木片まで、本当に様々な物が出てきました。骨(人骨だったのかはわかりません)を見つけたボランティアの方もいて、津波の脅威を感じ、それが一瞬で人々の暮らしを流し去ってしまったという事実に胸が痛みました。作業中に近所の方が様子を見に来られて、震災の後は本当に大変だったが、ボランティアなどたくさんの人たちのおかげで、徐々に元の暮らしができるようになってきたというお話しをされていました。私たちが参加した作業はプロジェクトのほんの一部ですが、来年の春には河川敷いっぱい咲いた菜の花が、住民の方たちを元気づけるような復興のシンボルになっていればいいなと思います。全国各地から集まった様々な年代、職業の方たちと一緒に作業ができたことも良い経験になりました。

私が被災地へ行って一番感じたことは、故郷があって、住む家があって、家族や友人がいる、そんな普段は当たり前だと思っていることが、どんなに幸せなことかということです。私は公務員を志望していますが、人々の当たり前の暮らしを守り、支えることができるような仕事をしたい、と改めて思うようになりました。

震災から3ヶ月が経っても、被災地の現状から復興にはまだまだ程遠いと感じました。完全な復興には何年もかかると思います。私たち1人1人が被災地のために自分ができることを考え、継続的な支援をしていくのが大切だと思います。ぜひ、1人でも多くの人に、災害ボランティアに行き自分の目で被災地を見てほしいです。

法学部3年 井田陽子

○ 法学部からのお知らせ

☆岡山大学法学部オープンキャンパスのお知らせ

8月6日(土)(13:30~15:30、於文法経済学部26番講義室)に、法学部オープンキャンパスが開催されます。法学部のすべてがわかります。

高校生の皆さんはぜひご参加ください!

岡山大学全体のオープンキャンパスについては以下をご参照のこと。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/koukai01.html>

○ 最近の話題

☆平成23年度 岡山大学法文経学部同窓会 東京支部総会が開催されました。

7月22日(金)午後6時半から、法曹会館で、平成23年度の同窓会東京支部総会が開催されました。今年は、初めて工学部同窓会と共に開催され、120名を超える出席者がありました。小長啓一岡山大学同窓会長、荒木勝同窓会担当理事のご挨拶の後、陶浪保夫法文経学部同窓会長の発声で乾杯をし、同窓生相互の懇親を深めました。

☆台湾国立高雄大学法学院から学生17名を短期滞在で受け入れました。

今年3月に学生交流協定を締結した台湾国立高雄大学法学院から17名の学生(院生2名を含む)を、7月25日から9月9日までの期間、法学部で受け入れることになりました。このプログラムは、日本学生支援機構の支援を受けたものです。期間中は、高雄大学の簡先生の法律日本語の授業の他、岡山大学の原田先生、張紅先生による特別講義、裁判所見学、日本人学生との交流などを予定しています。

-
- ・本メルマガは、毎月2回程度配信しています。
 - ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>
 - ・本メルマガには返信なさらないようにお願いします。
 - ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://court.law.okayama-u.ac.jp/mail/register.html>
 - ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho@law.okayama-u.ac.jp まで。